

## 令和 4 年 12 月の解説（週間天気予報）

### 【12 月の天候状況】

上旬は、低気圧が短い周期で通過し、通過後は北日本を中心に冬型の気圧配置が強まり寒気が流れ込みました。このため、北日本では気温が低く、北日本日本海側では大雪となった所がありました。また、北・東日本日本海側では降水量が多く、北・東・西日本太平洋側では少なくなりました。西日本日本海側では、高気圧に覆われやすかったため、降水量がかなり少なくなりました。一方、沖縄・奄美は前線や低気圧の影響で、曇りや雨の日が多く、降水量がかなり多くなりました。

中旬は、期間のはじめは高気圧に覆われて全国的に晴れた日もありましたが、13 日に低気圧と前線が日本海を通過した後は、冬型の気圧配置となる日が多くなりました。このため、北日本と東・西日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多く、西日本太平洋側を中心に晴れの日が多くなりました。また、旬の中頃からは強い寒気が流れ込んだため全国的に気温が平年を下回りました。14 日から 16 日にかけてと 18 日から 20 日にかけては冬型の気圧配置が強まり、北・東日本日本海側では山形県、福島県、新潟県を中心に記録的な降雪となった所もありました。また、九州を含め西日本の平野部でも雪が降りました。このため、降雪量は東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側では多くなりました。沖縄・奄美では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、22 日から 23 日にかけて低気圧が日本海と本州南岸を進み、低気圧が北海道付近を通過した後は 26 日まで強い冬型の気圧配置となり、北海道などで暴風雪となりました。また、山形県や石川県を中心に北日本から西日本の広い範囲で大雪となりました。21 日と 27 日以降は冬型の気圧配置が緩みました。また、沖縄・奄美では高気圧の南縁にあたることが多く、寒気の影響を受けやすくなりました。このため、東日本日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、沖縄・奄美では曇りの日が多くなりました。降水量は東日本日本海側でかなり多くなりました。23 日の降雪の深さ日合計は高知で 18cm と、統計開始以降、通年で最も大きくなり、徳島で 11cm と、統計開始以降、12 月として最も大きくなりました。日照時間は東日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なくなりました。強い寒気が西日本を中心に南下して気温が大きく低下した時期がありましたが、北日本は低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだことや寒気の中心から離れていたことから平均気温はかなり高くなりました。

### 【12 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)よりも 6 ポイント高い 82%でした。地方別の適中率では、すべての地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.4℃小さい 1.7℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.3℃小さい 1.7℃で、九州南部を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁 HP (予報精度検証) 内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

## 【2月の週間天気予報の利用にあたって】

2月は、1月とともに1年で最も気温の低い時期で、厳しい寒さとなる日が多いです。一方で、低気圧が発達しながら通過すると気温が急上昇した後、急下降するなど、気温の変動が大きくなる時期でもあります。気温の変化は地域によっても異なりますので、厳しい寒さへの対策とともに、週間天気予報で気温変化の傾向をつかみ、急激な気温変化に備えて健康管理などにも活用してください。